



徳成寺 寺ともかわら版 第200号 2023年8月



いつもありがとうございます。住職の大山です。

夏休みに入りましたね。お子さん・お孫さんのいる

お家は、大変です。夏休みの宿題は、今もなお課されている

ようです。学校に通っていた頃は、「何でお休みなのに宿題を

しないといけないのか？こんな勉強をして、将来何の役に立つのか？」

としばしば考えさせられました。某紙のコラムに「役に立たない、という

のは、価値がないということではない」と。「大切なのは何かを深く考えること。

すぐに成果が出なくとも、その行為がいかに尊いか」を、ある数学者の著書で教え

られたとありました。現代を生きる多くの方が、役に立たないことを、価値がないと

見下しているような気がしてなりません。仏教やお寺など役に立たないと暗に思っ

ているとしたら、何かを深く考える大切さまでも失っているのかも知れませんよ。

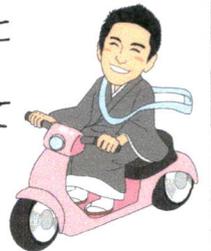
—発行責任者—

住職

大山 健児

坊守

大山 ひびみ



大山超世の耳を澄ませば



お世話になっております、副住職です。7月にある勉強会で勤行本(赤本)に収録されている和讃について講義を依頼されました。12月まで続く講義の初回なので、赤本には共に生きる事が願われて作られたという話しました。講義を終えた後、多様性が重視されている現代では「共に」何かをするのは難しいのではないかと話になり、やがて、ジェンダーや性自認の話題になりました。その際に参加者の1人が「自分の子供がもしもジェンダーの事で悩んでたととしても、親がやる事は子供に居心地良く思ってもらえるようにするだけでしょ？」と仰っていました。それを聞いて、共に生きると言うことはここにも良いと言う事を表現し続ける事なんじゃないかと感じました。私たちが為すべき事の本質はお互いがお互いにそこに居ても良い事を認める事であり、おびえて縮こまる事ではないと教えていただいたなと感じました。